

令和2(2020)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)  
 実績報告書(プログラム実施報告書)  
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)  
 (ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」

課題番号：20HT0140

プログラム名：血液がんの治療と看護について学び、患者さんの思いに応えるケアについて考えてみよう



所属 研究 機関	名称	山梨県立大学
	機関の長 職・氏名	理事長・清水一彦
実施 代表者	部局	看護学部
	職	講師
	氏名	高岸弘美

開催日	令和2年10月3日
実施場所	山梨県立大学 池田キャンパス
受講対象者	高校生
参加者数	18人
交付申請書に記載した募集人数	20人

## プログラムの目的

血液がんの治療は、抗がん薬による薬物療法や造血幹細胞移植などが主で、抗がん薬では重度の口腔粘膜炎が発生することが多く、予防的なケアが患者のクオリティ・オブ・ライフ(QOL:生活の質)のために重要である。この口腔粘膜炎を予防するために抗がん剤の投与中に口腔内を氷で冷やすクライオセラピー(冷却療法)がある。これまでの研究結果として、血液がんの患者においてクライオセラピーを実施した場合としない場合で効果を比較すると、実施した場合のほうが口腔粘膜炎の出現も少なく、重症化せず治療も継続できたという結果を得ている。本プログラムへの参加を通して、受講生に血液がんやがん治療・看護の知識を深めるとともに患者からの体験談(当事者参加型講義)を聞き、患者の体験する心身の苦痛への理解を深め、苦痛を緩和するための看護ケアの意義や意思決定支援における看護師の役割について体験を通して、考えることを目的とする。

## **プログラムの実施の概要**

### **事前準備・事務局との連携体制・安全配慮について**

・COVID-19 の感染状況によってはオンライン開催とすることを検討していたため、当日の資料は、事務局より、1 週間前に参加者へ郵送した。山梨県内は感染状況が落ち着いていたため、対面開催とすることも資料内へアナウンスを行った。

・実施に際しては、換気の良い広い講義室で行い、サーキュレータも使用した。トイレで手洗いができるように、泡タイプのせっけんの設置やペーパータオルの設置、講義室内外への手指消毒用アルコールの設置などの環境面の整備を徹底した。

参加者は間隔をあけて配置(着席)し、座席は移動せず固定とした。開始前と終了後に机等をアルコール消毒を行った。参加学生には、マスクの着用のお願いと体調不良時は参加は見合わせてほしい旨も事前に文書で依頼した。

・学生ボランティアは依頼を見送り、講師のみで実施した。関係者も含めて、当日の人数を最小限で行えるよう工夫した。

・欠席は 2 名であった。1 名は高校の行事と重なったということで事前に連絡があり、1 名は連絡なしであったが、遠方の学生だったため参加控えも考えられた。

### **広報活動について**

・広報活動は、7 月に高校教員向けの大学入試説明会があるため、その際に高校教員向けにアナウンスを行い、大学ホームページ内にも案内を掲載した。申し込み開始から 3 日程度で満員となった。参加者アンケートから、高校生は高校教員から企画を知ったという回答が多かったが、大学ホームページを見て知ったという回答もあり、個人で申し込みを決めたという参加者や友人の紹介、などもあった。今年度は本学がオープンキャンパスもなく、高校生が大学を知る機会がまったくなかったこともあり、看護師希望の学生にとって、本企画が大学を知る貴重な機会となったため、すぐに参加申し込みが満員になったと考えられた。

### **受講生にわかりやすく工夫した点**

・資料はすべてカラー印刷とした。開始時に、主催の高岸より、①企画の趣旨 ②科研費について ③研究内容について をスライドで簡潔に説明し、テーマと関連する講師(医師・看護師・患者)へ講義をしていただいた。科研費の研究テーマである、「がん化学療法における口内炎の予防の重要性」という視点で、講義内で各講師からがん治療に伴う副作用のつらさや、実際に予防策としてクライオセラピーを実施しているなどの説明もいただいた。各講師のスライド内には写真が多く使用され、医療用語も高校生向けにわかりやすく説明され、工夫がされていた。また、がん患者からの体験談を聴くことで、研究の効果を患者がどのように実感しているかという受け手の視点からも考える工夫を行った。

・プログラム後半では、本来は大学生や研究者とのグループ交流を予定していたが、接触感染と飛沫感染のリスクがあるため、グループ交流は行わず、高校生が個々に体験できるように、「アロママッサージ」と「カードゲームによる意思決定支援体験」を取り入れた。これもマッサージをセルフマッサージにしたり、ゲームのルールを工夫して個人でも行える方法にして接触感染予防を行い、演習の感想をマイクを消毒しながら参加者に意見を述べてもらい、参加した学生同士で交流ができるよう工夫した。

### **<当日のプログラム>**

- 12:30~13:00 受付（集合場所：池田キャンパス 4号館 第7講義室）
- 13:00~13:10 開講式（挨拶、プログラム紹介、趣旨説明）
- 13:10~14:40 血液がんについて医師・看護師の講義、研究成果紹介  
医師：杉田完爾 氏（山梨県赤十字血液センター 所長／医学博士）  
看護師：鈴木幸子 氏（山梨県立中央病院通院加療がんセンター看護師長／  
がん化学療法看護認定看護師）
- 14:40~15:00 看護学生との交流
- 15:00~15:30 患者様の体験談  
若尾直子 氏（がんフォーラム山梨 理事長）
- 15:30~16:30 演習「アロママッサージ体験・意思決定支援カード体験・意見交換」
- 16:30~17:00 修了式（記念撮影、アンケート記入）
- 17:00 終了・解散



写真1. ソーシャルディスタンスを考慮した座席配置とした



写真2. アロママッサージ体験（一人ずつ交代で好きなアロマオイルを選択した）



写真3. カードを用いた意思決定支援の演習(カードを各自で悩みながら選んでいるところ)



写真4. 修了式(修了証を主催者からひとりずつ渡した)

### **今後の課題**

・本来は活発に交流したり、体験ができるプログラムを考えていたが、COVID-19 のウイルス特性も考慮し、対面実施ではあるが非接触型のプログラムへ修正した。修正後も本来の目的が損なわれないように、個々の参加者が楽しめるように工夫を行った。オンライン開催も視野に入れていたが、参加者も講師も、アンケートや当日の感想から、対面開催の良さを改めて実感できたという声が聴かれ、またこのような機会があれば是非参加したいということであったため、今後も引き続き開催したいと考える。また、次年度は感染対策も状況に合わせて実施し、安全を確保しつつ、交流ができるようなプログラムにしたいと考える。